



www.fao.org

天然資源

主な動き

人間が1日に必要な食料を生産するためには2,000~5,000リットルの水が必要です。

2000~2004年には、およそ2億6,200万人が気候に関係した病気にかかりました。このうち98パーセントは開発途上国に住んでいます。

2030年までに世界人口が82億人になることが予想される中、地球は新たに15億人を養う必要がでてくることになります。このうち9割が途上国の国民です。

世界人口の2割は、洪水に見舞われやすい河川流域に住んでいます。

12億人以上の人々は深刻な水不足に直面している地域に住んでいます。このような地域ではすべての人が必要とするに十分な水がありません。また、およそ16億人は水不足の流域に住み、ここでは水資源を十分に確保するために必要な人的能力や資金が乏しいと見られます。

推計で2億5,000万人がすでに砂漠化の影響を受け、さらに10億人近くにその危険があるとされています。

資源不足と気候変動に向き合う

土地、水、遺伝物質といった天然資源は、食料生産、農村開発、持続可能な生活に欠かすことができません。こうした天然資源をめぐる争いは、長らく人類史の特徴の1つでしたが、残念なことに、多くの地域でこの争いが増大化するおそれがあります。背景にあるものは、食料、繊維、エネルギー需要の高まりのほか、豊かな土地の損失や劣化があります。生育状況の変化や水不足の悪化、生物多様性の損失、異常気象など気候変動による影響によって、争いはさらに悪化することが予想されます。生産的な農業を守るためにはこうした課題に取り組む必要があります。

土地資源

土地の所有は重要な問題です。FAOでは土地資源の十分な利用機会を保证する土地保有政策の導入を推進しています。他の国際機関と協力し、土地保有・管理における適切な統制、難民・国内避難民への財産の返還に関する指針を作成し、導入を後押ししています。

FAOの土地管理プログラムは、持続可能な農業を推進し、土地の特徴とその潜在的な利用法に関する理解を深めることを目的としています。プログラムでは土地目録の作成と土地の評価に取り組んでおり、最近では世界の土壌データベースを立ち上げました。



少ない水で食物を多く育てる必要があります。

©FAO/Giulio Napolitano

水資源を守る

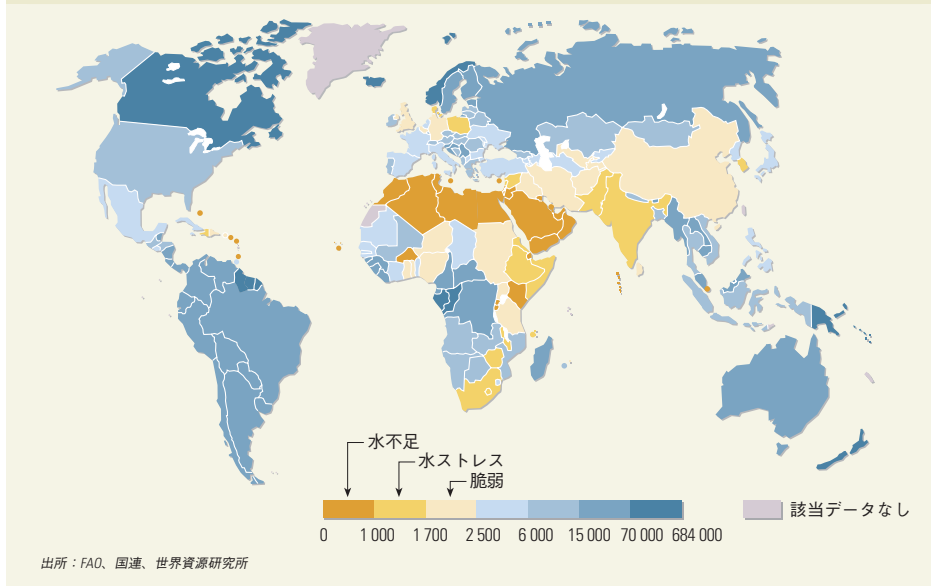
世界人口は現在の67億人から2015年には72億人に増えると予想されています。この将来の人口増を背景に重要となる世界的課題の1つが、少ない水で多くの食物を栽培し、水の効率利用と生産性を高め、水資源を公平に利用できるようにする能力です。現在、かんがい農業は世界の淡水利用の約70パーセントを占めています。一部の途上国ではこの割合が95パーセントに上り、一方で工業用と家庭用の淡水利用割合はそれぞれ約20パーセントと10パーセントです。

しかし、生態系が適切に機能するための水の

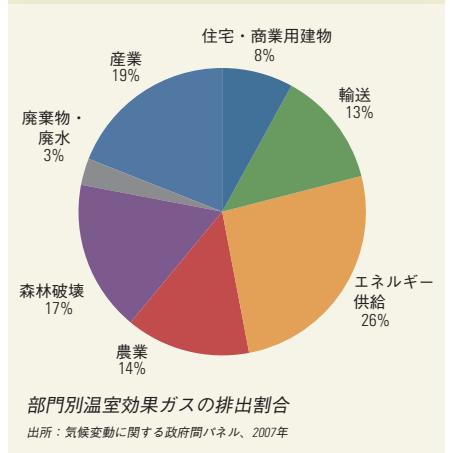
必要性が高まるとともに、工業・家庭用の水の利用による負担が高まっています。さらに気候変動や、それが最も脆弱な地域に与えるであろう影響が新たな課題を生み出しています。バイオ燃料用の穀物栽培で使用される水も新たな問題になると予想されます。

FAOは、水問題を扱う国連機関の連携強化のための組織、国連水関連機関調整委員会 (UN-Water) の主要パートナーとして積極的に活動しています。FAOの水資源データベース「AQUASTAT」は、国別・地域別の重要データと情報を掲載しています。

淡水の利用状況 (m³/人・年、2007年)



農業と砂漠化が温室効果ガス排出に大きく影響



バイオエネルギーの管理

バイオ燃料需要の高まりは、長期的に見れば、途上国の貧困削減、食料安全保障の強化、クリーンエネルギー源の利用に道を開く可能性があります。しかし、それも健全な政策と投資が行われてこそその話です。FAOはバイオエネルギーに関して適切な政策助言ができるよう、バイオエネルギー製品が食料安全保障に与える影響を測る新たな方法を開発しています。現在この方法を試験的に使用したプロジェクトがカンボジア、ペルー、タイ、タンザニア連合共和国で行われています。

気候変動

気候変動は多くの国で飢餓と食料不安を悪化させると考えられます。壊れやすい生態系の下で暮らしている何百万人もの人々にとって、気候変動は穀物の不作や家畜の損失リスクを大きく高めるおそれがあります。FAOの役割は気候変動への適応策を推進し、農村がニーズに最も適した対応策を取れるよう支援します。同時に、世界の温室効果ガスの排出削減に関しては、農業自体が解決策の一部となる可能性もあります。つまり、農業が気候変動の緩和、排出量の

削減、土壌中への炭素固定に確実に貢献するためには、農業問題と環境問題とを密接に考えなくてはなりません。

FAOは2005年以来、バングラデシュ北西部の干ばつの起きやすい地域で、気候変動・変化に適応した生活が送れるよう支援しています。この地域では人口の大部分が常にさまざまな自然災害の危険にさらされています。FAOは主要機関・農民組織と協力し、農民が気候変動への適応力を高められるよう取り組んでいます。

協定、条約、委員会

FAOは国際的な環境協定・条約においても極めて重要な役割を担っており、主要パートナーとして、生物多様性、砂漠化、気候変動の3分野に関する非常に重要な環境協定を推進しています。「食料農業植物遺伝資源に関する政府間委員会」(Intergovernmental Commission on Genetic Resources for Food and Agriculture)は、将来世代が遺伝資源を利用でき、誰もが恩恵を享受できることを目指しています。



サイクロンによる洪水に見舞われたバングラデシュ。このように、地球温暖化はより深刻な気象被害の原因となります。

©FAO/Giulio Napolitano



国際連合食糧農業機関 (FAO)
Viale delle Terme di Caracalla
00153 Rome, Italy

電話: (+39) 06 57051
ファクス: (+39) 06 57053152
Eメール: FAO-HQ@fao.org

報道機関問い合わせ先:
電話: (+39) 06 57053625
ファクス: (+39) 06 57053729